

【サゼンソウ(座禅草)って何?】

■雪国の湿地に春を告げる花です

高原の名花とされ可憐に白く咲くミズバショウと同じサトイモ科。日本海側のやや南まで分布して、山間の湿地に群生して春早くに暗紫色に咲く花が喜ばれます。



■花のように見えるのは苞です

仏像の光背に似ているので、仏炎苞と呼ばれる僧侶が座禅を組む姿に例えて呼んだのが名前の由来です。達磨大師の座禅する姿に見立てて、ダルマソウ(達磨草)の名前もあります。花は肉穂花序と呼ばれる中央の棒状のものの中に100個ほど咲きます。

■20℃ほどに発熱して雪をとかして芽を出します

生き物の活動に絶対に必要なのは水と温度です。人間も体温を保つために食べる必要があります。多くの植物は温かくなってから芽を出します。だけど雪が多く湿った寒い場所では間に合いません。上にある木々が芽吹いて葉を広げるより前に、花を咲かせ、実をつけ、葉を伸ばして栄養を貯える必要があるからです。温度は匂いを広げることにもなります。ザゼンソウはそんな場所だけに生える特別な植物なのです。

■花や株からは臭い匂いを出します

普通はきれいな花をつけ、いい匂いで昆虫たちを呼び寄せ、花粉を運んでもらいます。でも早春だとハエくらいしかいないので、腐ったような悪臭で呼びます。おしべとめしべを持つ花でも、自分の花粉は受けないようにしています。雄花と雌花をつけたり、更には人間と同じようにオスとメスとに別れます。これによって遺伝子の組み合わせが一つ一つ違ふようになり、個体にわずかずつの差が生まれます。

■花のあと実をつけ大きな葉を伸ばします

開花後に実をつけ、大型の葉を30~40cmほどに成長させます。ミズバショウだと1mにもなります。上部に葉を広げる湿地性樹木が芽吹く前のわずかの期間だけ活動しやがて跡形なく枯れます。

落葉樹林のもとで、春先のみ光を受けて活動を終える植物は“春植物(Spring Ephemeral: スプリング エフェメラル)”と呼ばれ“春の儂いもの”といった意味ほどで、ギフチョウなどの小動物にも拡大使用され親しまれます。

種子は野ネズミによって運ばれ地中に埋められ、食害をまぬがれた一部のみが発芽出来ると考えられています。

飯田市天然記念物

嵯峨坂ざぜん草自生地

長野県飯田市虎岩1840

アクセス



●飯田 IC から約 40 分
国道256号~南部広域農道(通称:南信州フルーツライン)
滝平上三心の辻より嵯峨坂線を東に 1.2kmで左手に上る
案内表示板

お問い合わせ

TEL 0265-29-7532

携帯TEL 090-7810-6588 (池田)

飯田市天然記念物

嵯峨坂

ざぜん草自生地

